

# 施工パッケージ型積算方式について

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (1) 施工パッケージ型積算方式の適用時期と範囲

### 【適用開始】

◆平成26年10月1日以降に起工する工事より試行を開始。

### 【適用範囲】

- ◆9工事区分(舗装、道路改良、築堤・護岸、道路維持・修繕、河川維持・修繕、砂防堰堤、電線共同溝)の主要工種に207施工パッケージを適用。
- ◆港湾歩掛においては1施工パッケージ、空港歩掛においては3施工パッケージを採用。  
(※土工等は土木工事と同じ施工パッケージを採用。詳細は施工パッケージ④を参照)
- ◆施工パッケージを導入した工種は、積算基準書から歩掛が削除され、工事区分にかかわらず全ての土木工事において施工パッケージによる積算を行う。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要

## (2) 施工パッケージへ移行する歩掛

分類	NO	歩掛名称	備考
総則	1	現場発生品及び支給品運搬	○
土工	2	土の敷均し、締固め	○
	3	土の敷均し(ルーズ)	○
	4	機械土工(土砂)	○
	5	機械土工(岩石)	○
	6	小規模土工	○
	7	人力土工(土砂)	△
	8	人力土工(岩石工)	○
	9	安定処理工	○
	10	安定処理工(バックホウ混合)	○
	共通工	11	法面整形工
12		芝付工	○
13		吹付法面とりこわし工	○
14		人工張芝工	○
15		コンクリートブロック積(張)工	△
16		場所打擁壁工(1)	○
17		プレキャスト擁壁工	○
18		サンドマット工	○
19		粉体噴射攪拌工(DJM工法)	○
20		スラリー攪拌工	○
21		高圧噴射攪拌工	○
22		構造物とりこわし工	○
23		吸出し防止材設置工	○
24		旧橋撤去工	○
25		かご工	○
26		函渠工(1)	○
27		函渠工(2)	○
基礎工	28	場所打杭工(オールケーシング工・全回転式オールケーシング工)	○
河川海岸	29	消波根固めブロック工	○
	30	消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25tを超え35.5t以下)	○
	31	浚渫工(バックホウ浚渫船)	○

分類	NO	歩掛名称	備考	
河川維持工	32	機械土工(超ロングアーム/バックホウ土工)	○	
	33	巨石積(張)工	○	
	34	かごマット工	○	
	35	袋詰玉石工	○	
	36	光ケーブル配管工	○	
砂防工	37	土工	○	
	38	砂防土砂仮締切・砂防土・砂土のう仮締切	○	
	39	砂防コンクリート締切	○	
舗装工	40	路盤工	○	
	41	アスファルト舗装工	○	
付属施設	42	排水性アスファルト舗装工	○	
	43	立入り防止柵工	△	
	44	路側工(取外し)	○	
道路維持修繕工	45	特殊ブロック設置工	○	
	46	路面切削工	○	
	47	切削オーバーレイ工	○	
	48	舗装版破砕工(機械)	○	
	49	舗装版破砕工(人力)	○	
	50	舗装版切断工	○	
	51	道路打換え工	○	
	52	路肩整正(人力による土はね)	○	
	共同溝工	53	共同溝工(2)	○
		54	情報ボックス工	○
トンネル工	55	トンネル工(NATM)[発破工法]	×	
	56	トンネル(NATM)[機械掘削工法]	×	
	57	トンネル工(NATM)坑口工(DⅢパターン)	×	
	58	トンネル工(NATM)非常駐車帯工	×	
	59	小断面トンネル工(NATM)	×	

備考:積算システムにおいて ○:全てSコード、△:一部がSコード、×:Sコード無し

本県において上記歩掛は**県独自歩掛**として、H26年9月末まで引き続き使用します。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (3) 施工パッケージ①

◆平成26年10月1日以降に起工する工事から施工パッケージ型積算を導入。  
施工パッケージに移行した歩掛は積算基準書から削除される。

No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称
1	掘削	17	法面整形	33	ふとんかご	49	基層(歩道部)
2	土砂等運搬	18	市松芝	34	函渠	50	中間層(歩道部)
3	整地	19	人工張芝	35	巨石採取	51	表層(歩道部)
4	路体(築堤)盛土	20	吹付法面取壊し	36	消波根固めブロック運搬	52	アスカーブ
5	路床盛土	21	間知ブロック張	37	消波根固めブロック仮置	53	排水性舗装・表層(車道・路肩部)
6	押土(ルーズ)	22	天端コンクリート	38	根固めブロック撤去	54	基礎ブロック(立入防止柵)
7	積込(ルーズ)	23	小型擁壁(A)	39	かごマット設置	55	金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)
8	河床等掘削	24	重力式擁壁	40	袋詰玉石	56	特殊ブロック舗装
9	土材料	25	プレキャスト擁壁設置	41	不陸整正	57	舗装版破碎
10	残土等処分	26	サンドマット	42	下層路盤(車道・路肩部)	58	舗装版切断
11	掘削(砂防)	27	安定シート・ネット	43	下層路盤(歩道部)	59	歩車道境界ブロック撤去
12	土砂等運搬(砂防)	28	粉体噴射攪拌	44	上層路盤(車道・路肩部)	60	地先境界ブロック撤去
13	押土(ルーズ)(砂防)	29	石積取壊し(人力)	45	上層路盤(歩道部)	61	踏掛版
14	積込(ルーズ)(砂防)	30	コンクリートはつり	46	基層(車道・路肩部)	62	殻運搬
15	掘削(光ケーブル配管)	31	吸出し防止材設置	47	中間層(車道・路肩部)	63	現場発生品・支給品運搬
16	安定処理	32	じゃかご	48	表層(車道・路肩部)		

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (3) 施工パッケージ②

◆平成26年10月1日以降に起工する工事から施工パッケージ型積算を導入。  
 施工パッケージに移行した歩掛は積算基準書から削除される。

No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称
64	床掘	80	ベルトコンベア併用人力掘削(床掘)	96	吸出し防止材(全面)設置	112	プレキャスト集水枡(材料費)
65	掘削補助機械搬入搬出	81	ベルトコンベア併用人力積込	97	植樹	113	鉄筋コンクリート台付管
66	基面整正	82	基礎碎石	98	現場打基礎コンクリート	114	プレキャストL型側溝
67	転石破碎	83	裏込碎石	99	小型擁壁(B)	115	プレキャストマンホール
68	埋戻し	84	基礎栗石	100	もたれ式擁壁	116	PC管
69	タンパ締固め	85	裏込栗石	101	逆T型擁壁	117	コルゲートパイプ
70	舗装版破碎積込み(小規模土工)	86	採取小割	102	L型擁壁	118	コルゲートフリューム
71	人力積込	87	コンクリートブロック積	103	化粧型枠	119	現場打ち水路(本体)
72	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石	88	平ブロック張	104	化粧型枠(材料費)	120	現場打ち集水枡・街渠枡(本体)
73	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等	89	連節ブロック張	105	ペーラインコンクリート(材料費)	121	粉体噴射攪拌(移設)
74	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類	90	緑化ブロック積	106	ヒューム管(B形管)	122	粉体噴射攪拌(軸間変更)
75	人肩運搬(運搬～取卸し)	91	緑化ブロック(材料費)	107	ボックスカルバート	123	削孔(アンカー)
76	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石	92	天端ブロック(材料費)	108	暗渠排水管	124	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー)
77	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント類	93	胴込・裏込コンクリート	109	フィルター材	125	グラウト注入(アンカー)
78	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類	94	胴込・裏込材(碎石)	110	管(函)渠型側溝	126	ボーリングマシン移設(アンカー)
79	小車運搬(運搬～取卸し)	95	遮水シート	111	プレキャスト集水枡	127	足場(アンカー)

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (3) 施工パッケージ③

◆平成26年10月1日以降に起工する工事から施工パッケージ型積算を導入。  
施工パッケージに移行した歩掛は積算基準書から削除される。

No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称
128	アンカー(材料費)	144	堆積塵芥処理(機械処理)	160	埋戻し・締固め	176	歩車道境界ブロック
129	積込(コンクリート殻)	145	堆積塵芥処理(人力処理)	161	敷砂、保護砂(材料費)	177	地先境界ブロック
130	目地板	146	運搬(堆積塵芥処理)	162	配管設置(埋設部)	178	排水柵
131	止水板	147	軟弱土等運搬	163	配管設置(露出部)	179	橋名板取付
132	止杭打込	148	巨石張(練)	164	ハンドホール	180	橋梁用高欄
133	現場取卸(鋼桁)	149	巨石張(空)	165	配管支持金具(材料費)	181	橋梁用高欄一体式(材料費)
134	現場取卸(PC桁)	150	巨石積(練)	166	プルボックス(材料費)	182	飾り高欄
135	現場取卸(鋼管杭)	151	巨石(材料費)	167	可とう電線管(材料費)	183	飾り高欄(材料費)
136	コンクリート	152	プレキャスト基礎	168	伸縮継手(材料費)	184	距離標
137	モルタル練	153	プレキャスト基礎(材料費)	169	ノーマルバンド(材料費)	185	路面切削
138	型枠	154	中詰コンクリート	170	多孔保護管(材料費)	186	殻運搬(路面切削)
139	撤去しない埋設型枠(材料費)	155	野芝種子吹付	171	フィルター層敷設	187	素地調整
140	消波根固めブロック製作	156	被覆シート張	172	透水性アスファルト舗装	188	付属構造物塗替
141	消波根固めブロック据付	157	養生(散水養生)	173	支柱	189	路面清掃(路肩部・人力)
142	散在塵芥処理	158	笠コンクリートブロック	174	支柱(材料費)	190	路面清掃(歩道等・人力)
143	運搬(散在塵芥処理)	159	笠コンクリートブロック(材料費)	175	車止めポスト	191	側溝清掃(人力清掃工)

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (3) 施工パッケージ④

◆平成26年10月1日以降に起工する工事から施工パッケージ型積算を導入。  
 施工パッケージに移行した歩掛は積算基準書から削除される。

No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称	No	パッケージ名称
192	ガードレール復旧		港湾歩掛		空港歩掛		
193	ガードパイプ復旧	1	根固ブロック工(根固ブロック製作)	1	路床整形工		
194	舗装版破碎積込	2	土工(土木工事と同じ)	2	路盤工		
195	床掘	3	構造物撤去工(土木工事と同じ)	3	アスファルト舗装工		
196	埋戻し・締固め			4	土工(土木工事と同じ)		
197	運搬(電線共同溝)			5	共通工(土木工事と同じ)		
198	軽量鋼矢板設置撤去			6	コンクリート工(土木工事と同じ)		
199	覆工板設置撤去			7	道路維持修繕工(土木工事と同じ)		
200	管路材設置			8	道路舗装(土木工事と同じ)		
201	受金具(材料費)			9	道路付属施設(土木工事と同じ)		
202	支持金具(材料費)						
203	管路受台(スペーサー)(材料費)						
204	プレキャストブロック設置						
205	蓋設置						
206	蓋(材料費)						
207	排水管						

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (4) 期待される効果

### (1) 受注者への効果

#### ◆元請下請間の契約の透明性の向上

- ・ 「標準単価」として直接工事費が公表されるため、元請下請間の契約の透明性の向上が見込まれる。

#### ◆価格の透明性の向上

- ・ 標準単価及び積算単価への補正方法等を公表することにより、発注者の価格設定が明確化され、設計変更時等における受発注者の協議の円滑化が見込まれる。なお長崎県においては、単価協議は行わない。

### (2) 発注者への効果

#### ◆積算業務の負担軽減

- ・ 発注者の積算作業の簡素化が図られる。

#### ◆標準歩掛調査の負担軽減

- ・ 地方整備局が毎年実施している標準歩掛調査や、標準歩掛の検討・取りまとめについて、施工パッケージ化により単価の収集・分析を行うことで、価格の設定が簡素化され、標準歩掛調査の負担の軽減が図られる。

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

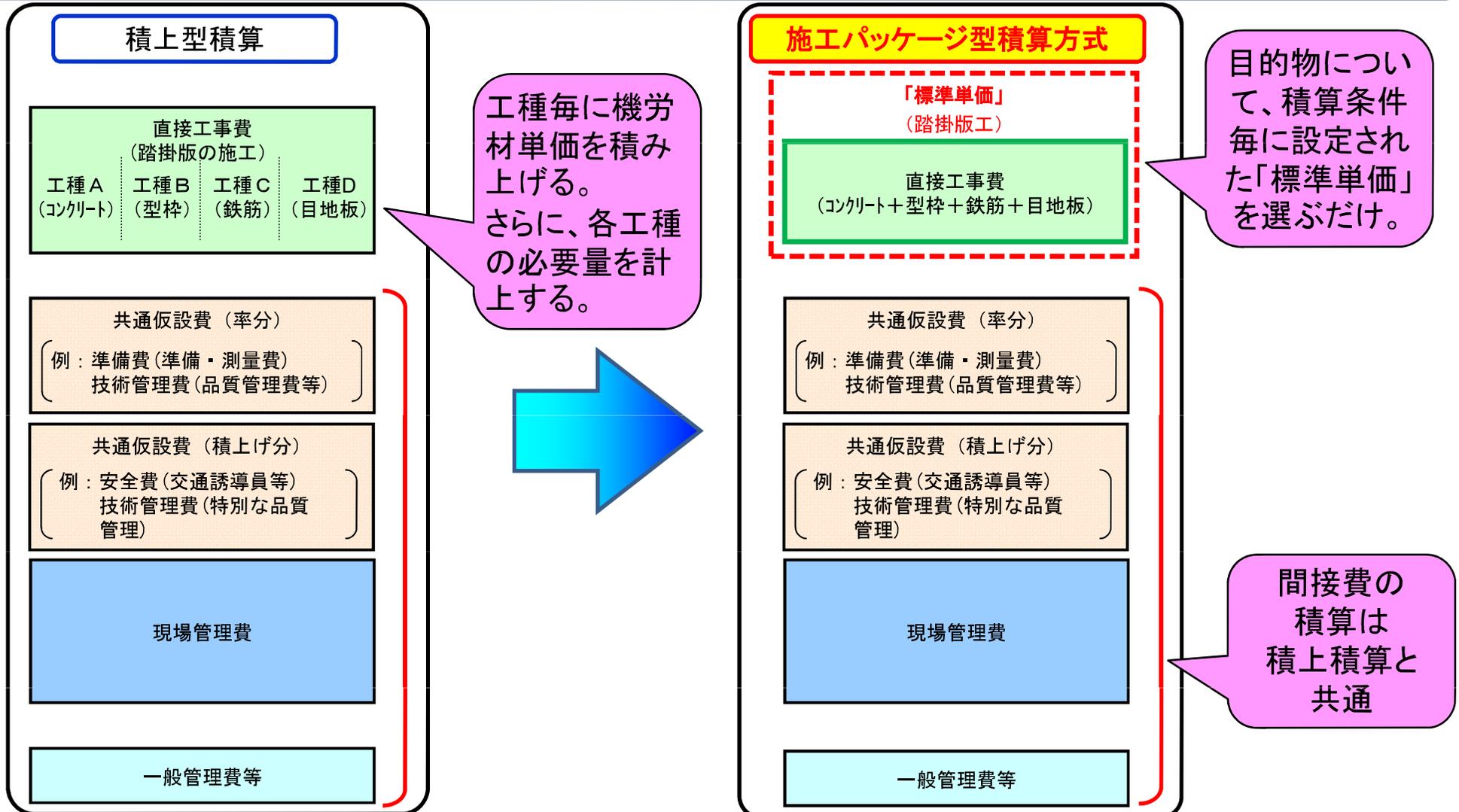
## (5) 用語の定義・解説

名称	定義・解説
標準単価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京17区における基準年月の標準的な単価</li> <li>・平成26年度版の基準年月は平成25年4月</li> <li>・国総研HPに公表(基準書には非掲載)</li> </ul>
積算単価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事地区、発注時期に応じて標準単価を補正して算出する単価</li> <li>・補正により算出可能であるため非公表</li> </ul>
補正式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積算単価算出の際に使用する補正式で、計算例も国総研HPに公表(標準単価、機労材構成比、機労材単価を用いて算出)</li> </ul>
代表機労材規格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準単価を設定した際に想定した代表的な機械・労務・材料規格</li> <li>・国総研HPに公表(基準書にもパッケージ毎に記載)</li> <li>・機械3機種、労務4職種、材料4規格、市場単価1規格を公表</li> </ul>
機労材構成比	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準単価毎に設定された代表機労材規格毎の金額構成比率</li> <li>・国総研HPに公表(基準書には非掲載)</li> </ul>

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (6) 積算体系の相違

『施工パッケージ型積算方式』とは、**直接工事費**について、**施工単位ごと**に機械経費、労務費、材料費を含んだ**標準単価**を設定し、積算する方式。



# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (7) 標準単価の透明性の確保

価格の透明性を確保するため、標準単価を公表。

また、積算にあたっては標準単価を実際に工事を行う地域や時期にあった単価(積算単価)に補正するため、**標準単価から積算単価への補正方法**も公表。

### 《補正式 (イメージ)》

H26.10 長崎 積算単価の場合

$$= \text{H25.4東京標準単価} \times \left( K \times \frac{\text{H26.10長崎機械単価}}{\text{H25.4東京機械単価}} + R \times \frac{\text{H26.10長崎労務単価}}{\text{H25.4東京労務単価}} + Z \times \frac{\text{H26.10長崎材料単価}}{\text{H25.4東京材料単価}} \right)$$

分子の材料単価は、毎月変動

分母の機労材単価は、年度内固定

K: 標準単価に占める機械費の構成割合  
R: 標準単価に占める労務費の構成割合  
Z: 標準単価に占める材料費の構成割合

### 公表(年1回)

- ◆ 補正式
- ◆ H25.4東京地区の標準単価
- ◆ 標準単価における機労材構成比

### 非公表

平成26年度版標準単価の基準年月は  
平成25年4月

- ◆ 積算単価  
⇒ 補正式を用いて算出可能
- ◆ 機械・労務・材料単価  
⇒ 物価資料等により公表されている

# 1. 施工パッケージ型積算方式の概要と特徴

## (8) 積算単価の算出方法(計算例)

アスファルト舗装工 表層(車道・路肩部)(45~55mm、1.4m以上、密粒度As20、タックコートPK-4、標準単価1,525.9円)の積算単価(長崎(H26.10))を算出する。

アスファルト舗装工 表層(車道・路肩部)の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H25.4)(円)	長崎(H26.10)(円)
K		3.52	—	—
K1	アスファルトフィニッシュ[ホイール型・排ガス対策型(第2次)]舗装幅2.4~6.0m	1.88	38,200	38,200
K2	タイヤローラ[排ガス対策型(第1次)]8~20t	0.54	10,800	10,800
K3	ロードローラ[マカダム・排ガス対策型(第1次)]質量10~12t	0.53	11,700	11,700
R		6.96	—	—
R1	普通作業員	2.39	14,000	13,700
R2	特殊作業員	1.47	17,300	16,600
R3	特殊運転手	1.44	17,100	16,500
R4	土木一般世話役	0.53	19,100	18,500
Z		89.52	—	—
Z1	アスファルト混合物密粒度AS混合物(20)	86.53	10,500	10,500
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.49	88.7	88.5
Z3	軽油1.2号 パトロール給油	0.41	106	116

$$P'(\text{長崎(H26.10)}) = 1,525.9$$

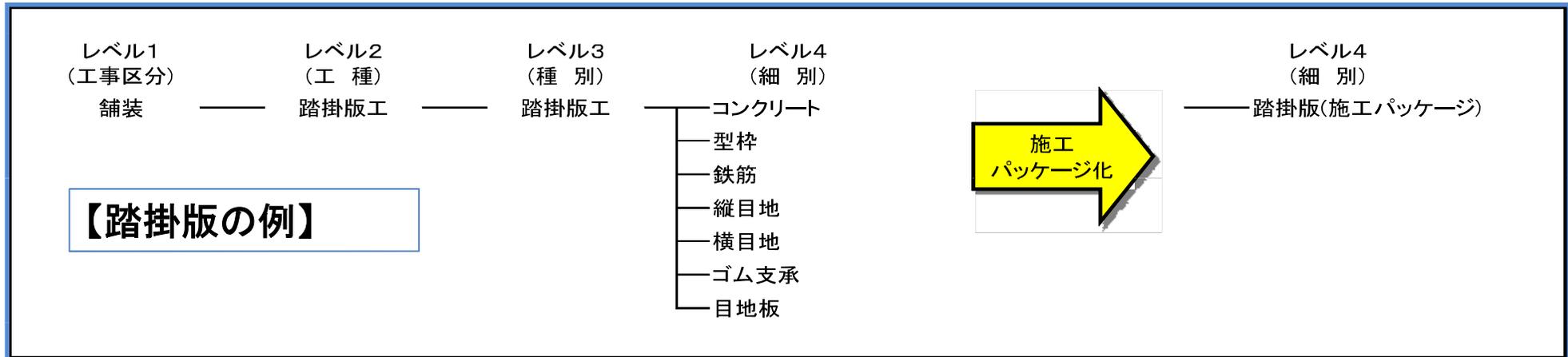
当ページで使用している構成比・金額は参考値です

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \frac{1.88}{100} \times \frac{38,200}{38,200} + \frac{0.54}{100} \times \frac{10,800}{10,800} + \frac{0.53}{100} \times \frac{11,700}{11,700} \right\} \times \frac{3.52}{1.88 + 0.54 + 0.53} \\
 & + \left\{ \frac{2.39}{100} \times \frac{13,700}{14,000} + \frac{1.47}{100} \times \frac{16,600}{17,300} + \frac{1.44}{100} \times \frac{16,500}{17,100} + \frac{0.53}{100} \times \frac{18,500}{19,100} \right\} \times \frac{6.96}{2.39 + 1.47 + 1.44 + 0.53} \\
 & + \left\{ \frac{86.53}{100} \times \frac{10,500}{10,500} + \frac{2.49}{100} \times \frac{88.5}{88.7} + \frac{0.41}{100} \times \frac{116}{106} \right\} \times \frac{89.52}{86.53 + 2.49 + 0.41} + \frac{100 - 3.52 - 6.96 - 89.52}{100} \} = 1,524(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

## 2. 入札・契約図書類における留意事項

### (1) 工事工種体系ツリーの変更

施工パッケージ化に伴い工事工種体系ツリーが変更となったものがある。



【体系ツリーに変更のある施工パッケージ】

施工パッケージ		施工パッケージ	
1	掘削	17	上層路盤(車道・路肩部)
2	掘削(光ケーブル配管)	18	下層路盤(歩道部)
3	土砂等運搬	19	上層路盤(歩道部)
4	整地	20	基層(車道・路肩部)
5	路体(築堤)盛土	21	中間層(車道・路肩部)
6	路床盛土	22	表層(車道・路肩部)
7	積込(ルーズ)	23	基層(歩道部)
8	押土(ルーズ)	24	中間層(歩道部)
9	土材料	25	表層(歩道部)
10	粉体噴射攪拌	26	基礎ブロック(立入防止柵)
11	じゃかご	27	金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)
12	ふとんかご	28	特殊ブロック舗装
13	巨石採取	29	舗装版破碎
14	消波根固めブロック運搬	30	舗装版切断
15	消波根固めブロック仮置	31	踏掛版
16	下層路盤(車道・路肩部)	32	敷運搬

### 3 . 設計変更について

#### ( 1 ) 施工パッケージ型積算方式の変更対応方法

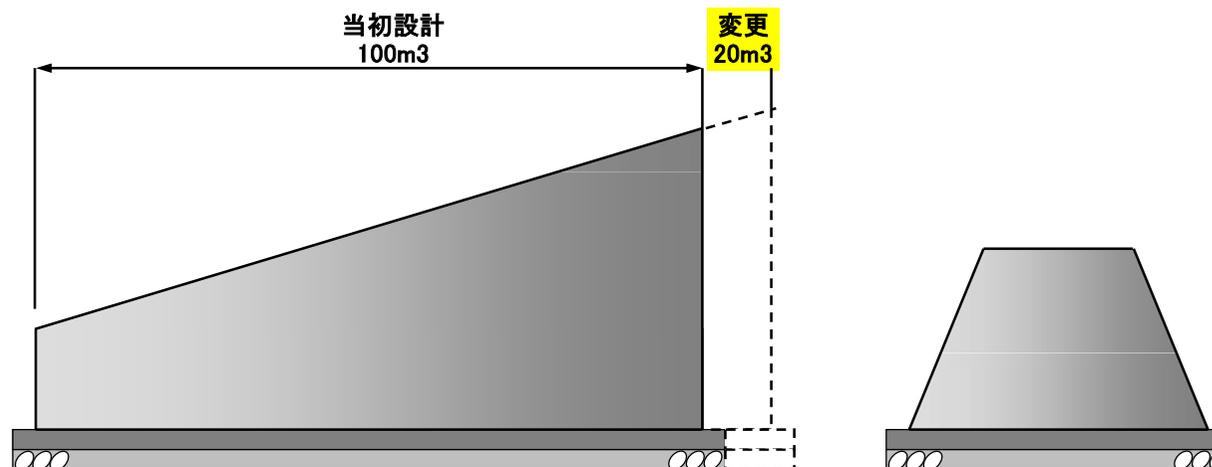
◆変更対象となる・ならない、変更積算における基本的な考え方は積上積算と同じ。

変更要素	変更内容	変更対応方法	備考
施工数量の変更	Co打設量、土量、舗装面積など	積算単価 × 変更施工量 に対応	【解説】 具体例－1参照
使用材料の変更	Co規格(呼び強度、セメント種類)、 舗装材料など	積算条件区分の変更 に対応	【解説】 具体例－2参照
条件区分の変更	舗装厚、運搬距離、土質、 昼夜間など	適用範囲及び積算条件区分の範囲に、 含まれる場合 ⇒ 変更なし 含まれない場合 ⇒ 積算条件区分の変更 に対応	【解説】 具体例－3参照
施工機械の変更	代表機労材規格と違う施工機械を 使用する場合など	現場条件が適用範囲から外れていた場合 ⇒ 見積対応 (例;高所作業車の適応高さ外) 積算条件に施工機種が無い場合 ⇒ 変更なし	【解説】 具体例－4参照

### 3 . 設計変更について

#### (2) 施工数量の変更(打設量、掘削量など)

【事例1】現場条件などにより小型擁壁の設置延長が増加した場合は、**積算単価×変更施工量**で対応する。

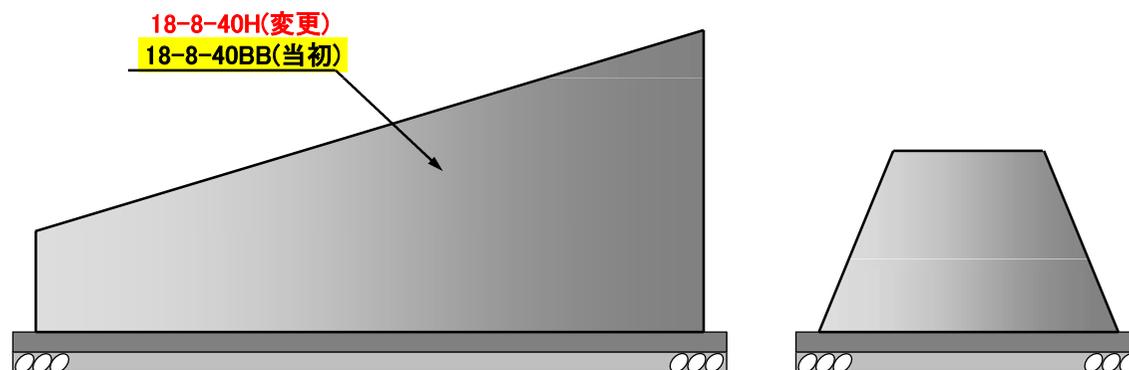


工事数量総括表						
工事名 (当初)						
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格:18-8-40BB	m3	100	120		

# 3 . 設計変更について

## ( 3 ) 使用材料の変更 (数量が同じで規格のみ変更)

【事例 2】  
 関係機関との協議により施工工程が厳しくなり、工期短縮を図るため小型擁壁のコンクリート規格に早強の使用を指示した場合の新単価の算出は、**標準単価の材料規格を補正して算出する。**



工事数量総括表						
( 当 初 )						
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40BB	m3	100	0	←	当初
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40H	m3	0	100	←	変更

# 3 . 設計変更について

## ( 4 ) 幅のある条件区分の変更 (As舗装の厚さなど)

**【事例3】**図面が変更になり、当初の積算条件区分外になった場合は、**条件区分の変更**で対応。但し、積算条件区分に含まれる範囲は変更しない。

**【記載例：アスファルト舗装 基層・中間層・表層】**

### 3. 施工パッケージ(仮称)

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

#### (1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部) 積算条件区分一覧  
(積算単位：m<sup>2</sup>)

平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類
35mm以上45mm未満	1.4m未満	(表3.2)	
	1.4m以上		
45mm以上55mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
55mm以上65mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
65mm以上70mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		

平均厚さ: 50mm→55mm 変更○  
平均厚さ: 50mm→54mm 変更×

他に、“運搬距離変更”、“土質変更”、“昼夜間変更”等も条件区分の変更で対応する。

(注) 1. 上表は、車道・路肩部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布の他、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. アスファルト混合物・瀝青材料の材料ロスを含む

3. 面積=本線+すりつけ部+非常駐車帯とする。

# 3 . 設計変更について

## ( 5 ) 施工機種の変更

【事例4】自主施工を原則とするため、基準書記載の適用範囲(施工高さ、深さなど)及び積算条件区分に含まれる範囲は、変更しない。

### 【積算】

施工土量: 80,000m<sup>3</sup>  
積算単価: 「土量50,000m<sup>3</sup>以上」で算出

#### 積込(ルーズ) 積算条件区分一覧

(積算単位: m<sup>3</sup>)

土質	作業内容
土砂	土量50,000m <sup>3</sup> 未満 ←
	土量50,000m <sup>3</sup> 以上 ←
	平均施工幅1m以上2m未満

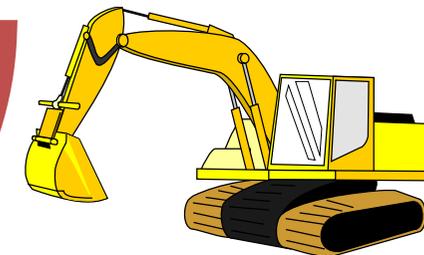
《施工パッケージで  
想定している機械》

バックホウ 0.8m<sup>3</sup>  
バックホウ 1.4m<sup>3</sup>

※基準書の代表機労材規格  
一覧に表示。

### 【現場】

現場で使用した機械  
バックホウ0.8m<sup>3</sup>



現場で0.8m<sup>3</sup>のバックホウを使用したからといって、積算条件を「土量50,000m<sup>3</sup>未満」に変更しない。

## 4 . その他

国土交通省（九州地方整備局）及び国総研HP公表内容（平成26年4月1日現在）

- ・ 施工パッケージ型積算基準
- ・ 施工パッケージ型積算方式標準単価表（H26.4適用）
- ・ 代表材料規格の基準単価作成方法について（H26.4適用）
- ・ 施工パッケージ型積算方式について（H25版説明資料）
- ・ 施工パッケージ型積算方式Q & A（その1）
- ・ 施工パッケージ型積算方式Q & A（その2）
- ・ 平成25年度（10月改正）土木工事数量算出要領（案）
- ・ 平成25年度版 工事工種体系ツリー

国土交通省HP施工パッケージ関連ページ <http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekkei.html>  
九州地方整備局HP施工パッケージ関連ページ [http://www.qsr.mlit.go.jp/kensetu\\_joho/](http://www.qsr.mlit.go.jp/kensetu_joho/)  
国総研HP [http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme\\_sekop.htm](http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)